

ダンプ通信

広島市のダンプ労働者の新聞

災害復旧工事と言えども過積載があってはならない、単価の改善、長時間運転させないことなどを発注者に緊急要請しました。

とりあえず広島市役所、整備局、県に申し入れ。



災害土砂の運搬のことで緊急の申し入れを行う小林議長と武田事務局長 (21 日広島市役所にて)

西日本豪雨災害は広島県内では死者・行方不明者一一四人、家屋の被害一万四千軒崩れた箇所約七千か所という未曾有の大災害となりました。ダンプや重機の労働者は災害復旧工事では最先端で活躍していますが、災害復旧工事と言えども過積載はあってはなりませんし、低単価の放置やまして長時間運転があってはなりません。

広島市、整備局、広島県に緊急要請を行いました

広島ダンプ支部は八月二二日に、災害土砂の運搬など災害復旧工事にかかわり、ダンプ持ち労働者の「労働環境の改善」のための緊急要請を行いました。

要請行動には小林豊数議長、武田喜成事務局長など三人が参加しました。小林議長は「必ず現場で対応している職員に周知徹底してもらいたい」と要請しました。広島市の要請には技術管理課の穴水課

全日本建設交通一般労働組合広島県本部
広島ダンプ支部
〒七三〇〇八五三
広島市中区堺町一丁目二九三〇三

TEL (082) 23551051
FAX (082) 23551051
ctg303.hiroshima@orange.plala.or.jp

長が対応、整備局では総務部契約課の細木課長補佐が対応、県は建設産業課に申し入れました。対応したところは「要請趣旨は分かりました。現場の職員にも徹底します」と答えていました。

呉市に二八日に申し入れました

呉市の申し入れには、武田喜成事務局長と山田昭夫特別執行委員が申し入れました。

組合の申し入れ事項

1. 土砂運搬にあたっては過積載がないように指導を徹底すること。
2. 定量積載で国交省の積算単価を踏まえて適正単価(直工費分)が支払われるように元請け業者に指導すること。
3. 長時間運転は、重大事故を引き起こす原因となっており、元請け業者に指導を徹底すること。



渡辺人事課長に説明し要請する武田喜成事務局長 (8月28日呉市役所)

市役所本庁の人事課の渡辺達士課長が対応しました。呉地区労連の森芳郎議長と日本共産党市議会議員の奥田和夫、久保あずまの両議員も同席しました。

武田喜成事務局長が、ダンプ持ち労働者が災害復旧工事に従事させられているが、過積載が横行し、低単価で働かされていること、長時間運転にさらされており二次災害も起きかねないことなどのダンプの実情について説明し、「ダンプ規正法」にもとづく「指導事項」守って安全に災害土砂の運搬をするように元請けにも市の現場の職員にも徹底することなどを要請しました。

改めて担当部所との話し

合いを設定します

渡辺課長は「担当部署の者は災害対応のため今日は代わりに聞かせてもらいましたが、担当課にも説明し日を改めて要請を受けるようにします」と述べました。

徒然草

■まさにスーパーボランティア。今年のお盆の話題を独り占めした山口県周防大島町の二歳の理稀(よしき)ちゃんを探し当てた大分の老人の快挙には拍手を送りたい。尾島春夫さんは七八歳。◆警察官を大量動員したのに、二日経っても子どもは見つからない。大分から軽四に乗りさつそうとやってきた尾島さん、山に入ってわずか三〇分で理稀ちゃんを見つけた。まさに神業である◆尾島さんは六五歳で商売をきっぱりやめ、「これまでの恩返しで人の役に立つことをしたい」の一念で災害などが起きると東日本大震災でも熊本地震の時も現地に駆けつけてボランティア活動、豪雨災害の広島県にも来ていた。◆理稀ちゃんを見つけた時も「子どもは上に歩いてゆくと思った」という尾島さんのこれまでの経験が見事に当たった訳である。テレビのコメンテーター曰く「疾風(はやて)のように現れて疾風のように去ってゆく」のたとえがぴったりの人である◆尾島さんはどうやって健康を維持しているのか、これがとても気になった。ボランティア活動は健康でなくてはできない。インタビュでも「毎朝三時に起きて8km走っています」とさり気なく答えていたが、頭が下がらない業(わざ)である。(M)

ボランティアを待っている人は沢山いる

お盆前に被災地・坂町小屋浦地区のボランティア活動に参加しました



八月一二日(日)はじめて坂町小屋浦地区のボランティア活動に参加しました。クレーン(広島―呉道路・現在不通)が上を通る小屋浦小学校に行く川筋は小学校近くに來ると道路の右端にある歩道が土石流ですべて流れて無くなっていましたが、改めてこの地域を襲った洪水の破壊力を見せつけられました。(写真左は歩道がなくなった川筋の道路・坂町小屋浦地区)

私たち「広島災対連グループ」が向かったのは小屋浦四丁目のYさんのお宅、この日ボランティアが初めて入る家でした。家主(高齢の女性の方)は施設におられるとのことで、親戚の人が親子で待つておられました。床上浸水で水に濡れて使えなくなったソファや家具や冷蔵庫などを外に出してから、畳を取り除き、床板を外しそれから泥出し作業を行いました。午前中だけだったので泥出しはあまり多くはできませんでした。

(猛暑のため一〇分作業一〇分休憩)
この日も猛暑日でしたが、泥出し作業はきつい作業のため長くはできません。役所からも「一〇分作業一〇分休憩」を厳守し

てボランティア活動をするよう指示が出されてきました。泥出し作業を始めて間もないころ一緒に作業していた青年が思わず「先が見えない」とつぶやいていました。私も「うだな」と思いました。しかし一人の力は大きなことはなくてもみんなでやれば何とかできる、その思いで作業しました。

自宅は全壊、土砂や大木で一歩

間違えば死んでいました。

休憩中に親戚の方に話を伺うと、その人の家はこの地区ではないが「家は全壊です。六日の夜八時ごろ風呂場を突き破って押し寄せてきた土砂流や大木で家は破壊されました。もし風呂に入っていたら命はなかったでしょう」と当時のことを話されました。また「ボランティアの人が来るのを待っている家は他にもたくさんあります」とも話していました。自分の家も大変なのに家人のいない親戚の家の世話もされていることに、本当に大変なことだと思いましたが、その上一緒に来ていたお母さんが転倒されたため急に当番医のところへ連れて行かねばならな



くなつたため、「ここはそのままにしておいてください」と午前中の作業終了前にお母さんを病院に連れていかれました。本当にお気の毒でまさに「二次被害」と言えます。

午後の作業を引き継いでくれたボランティアの皆さんの作業で、この家の泥出しは終了したと後日の「ニュース」で知り少し安心しました。(写真は泥出し作業の休憩中)

豪雨被災者カンパを呼びかけます。

広島ダンプ支部では、この度の「豪雨災害被災者」支援の「災害カンパ」を呼びかけています。これまでも建交労全国青年部、東海ダンプ、ダンプ支部の組合員などから「見舞いカンパ」を頂きました。東日本大震災の時もカンパに取り組みましたが、金額はいくらでも構いません。豪雨災害で被災した組合員を支援するカンパにご協力ください。

一体どこの国の首相

か、アベ首相は

被爆七三年式典で核

兵器禁止条約を無視

八月六日の広島市の記念式典の挨拶で安倍首相は「唯一の戦争被爆国」という言葉は発しましたが、昨年国連で採択され現在14か国が批准し、50か国が批准すれば90日後に発効されるという「核兵器禁止条約」には昨年同様一言も触れないという「異常」な挨拶を行いました。頭にあるのは「総裁3選だけ」としかうつらない空虚な挨拶でした。被爆者団体との懇談でも昨年同様「一体どこの国の首相か」との厳しい批判が出されました。

今後の組合活動日程

- 八・二五 ダンプ支部合同役員会
- 八・二八 呉市役所に申し入れ
- 九・一 建交労第二〇回定期大会(三日)
- 九・三 アベ政治許さない「3の日行動」
- 九・五 県本部執行委員会
- 九・八 企業組合広島定例会
- 九・一四 全国ダンプ使用促進闘争交流会議
- 九・一五 企業組合呉定例会
- 九・二二 広島ダンプ支部合同役員会
- 九・二九 広島県労連定期大会
- 九・二九 アスベスト電話相談(三日)
- 十・三 アベ政治許さない「三の日行動」
- 十・七 建交労広島県本部第二〇回定期大会
- 十・九 中国市長会に要請(倉吉市)
- 十・十三 企業組合福山定例会
- 十・二〇 建交労中国フェスタ(島根二日)
- 十・二七 ダンプ支部合同役員会
- 一一・一〇 企業組合広島定例会
- 一一・一七 企業組合呉定例会
- 一一・二四 ダンプ支部合同役員会
- 一二・一五 企業組合福山定例会